



小さな贈物を喜ぶ少女、ウクライナ国チェルノブリにて



ミッション・宣教の声 主幹
黒田 祯一郎

すばらしい贈物

御使いは彼女に答えた。「聖靈があなたの上に臨み、
いと高き方の力があなたをおおいます。
それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。」
ルカ 1:35

主イエス・キリストの誕生をお祝い申し上げます。

私たちは4度のアドベント(待降節)を迎えて、イエス・キリストの誕生を心待ちしています。神の御子イエス・キリストの誕生は、人知を超えた不思議なことでした。冒頭のみことばのように、聖靈は母マリアに臨まれました。私たちはイエスの誕生は聖靈の働きと聞いても、あまりピーンとこないかもしれません。聖靈は三位一体の第3位格であることは知っていますが、それは精神世界の中の事柄に限定して考える傾向があるように思います。聖靈は物質世界を本当に支配し、介入し、必要な時には、ご自身の意のままに動かす御方であることを余り意識していません。

しかしルカの福音書には、聖靈が多く出現します。聖靈は主権者として、意のままに歴史に介入し、物質世界を動かしておられることが分かります。ルカは「聖靈」「聖靈」「聖靈」と何度も「聖靈」に言及し、聖靈の主権を高らかに歌い上げています。み使いはパプテスマのヨハネの母エリザベスに、「その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い

酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖靈に満たされ」(ルカ1:15)と言いました。イエスは「しかし、聖靈があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」(使徒1:8)と言われました。ルカが書いたルカ福音書には、聖靈が13回、使徒の働きには41回も出てきます。

聖靈は物質世界を動かす御方であることは、経験無しには難しいかと思います。ザカリヤ、エリザベス、マリア等もみな聖靈に包まれ驚きました。しかし聖靈は、今も驚くべき「わざ」をなされます。私たちが聖靈を誘導するのではなく、聖靈が私たちを誘導してくださいます。イエスは「わたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。」(ヨハネ 14:16)今年のクリスマスにあたり、私と聖靈の関係はどのようにであったでしょうか。助け主なる聖靈のご臨在を、どれほど経験した年であったでしょうか。

コロナ禍の海外邦人宣教 13

コロナ禍におけるノルウェーでの邦人宣教

ノルウェー・斯塔バンガーノ日本語聖書集会
代表 森 功

私たちの集会はノルウェー南西部に位置し、第4の町スタバンガーにあります。集会は今年で53年になります。成り立ちは、1965年日本から雛の雌雄鑑別師として赴任された安倍哲氏が、ここでクリスチヤンになった事に由来します。阿部氏は救われてすぐに、伝道団体「レイマンクルセード」を設立し、世界を股にかけ主を証しました。現在ヨーロッパ各地にある日本語教会創設にも、少なからずかかわっています。正に伝道者パウロを彷彿させる、命を懸けた信徒伝道者でした。安倍哲氏は1989年に天に召されました。私も雛鑑別師としてこの地に派遣された折に、安倍氏を通して聖書に出会い、クリスチヤンになった経緯から、その後の集会と仕事の責任者として後を引き継がせて頂いております。

2018年、集会50周年を機に、名称を「ブリーネ祈りの家集会」から、スタバンガーノ日本語聖書集会と変更し、ノルウェー宣教団の施設を借りて集会を持っています。この地方にも、70名ほどの日本人関係者が住んでいます。現在は「聖書を読む会」を中心に集会を持っており、今のところ集われているのはクリスチヤン6~7名の方々です。今後の課題としては、地理的に毎週開くことは難しいですが、来年からは「聖書を読む会」を少なくとも月一回は開くことを目ざし祈っております。

コロナ禍での集会

さて、昨年来の世界的なコロナパンデミックはノルウェーにも及びました。今はワクチンの完全接種から感染者も少くなり、これまでの感染者は約19万人、死者の数は約900人弱です。昨年3月以来、あらゆるイベントに人数規制がかかり、教会の礼拝もYou Tube等で行われるようになりました。しかし9月25日からは、全ての規制が解除されました。私たちは対面集会を5回程度しか持てませんでした。東側のオスロ日本人集会では、昨年来Zoom礼拝と祈り会が持たれています。

そのような中で、私は何かお役に立つことはないかと思っていたところ、納豆作

りを思い立ちました。以前から時々作っていましたので、希望の方に喜んでもらえたらと、量を多めに作っています。最近は市販の製品にも劣らない、ノルウェー産サーモンならず、納豆が出来ています。「豆で幸せに」とも言いますからね。(笑)



斯塔バンガーの町

T姉妹の証し

さて、ここで今月の集会に集った方のお証を記します。最近スペインから帰国されたTさんです。ご主人はノルウェー人でしたが、数年前に亡くなられました。その後Tさんは、娘さんの仕事の関係で日本とスペインに、それぞれで数年間滞在することになりました。Tさんは10数年前に、今は亡き集会の姉妹に誘われて、集会に数回来られたことがあります。その後日本に住むようになり、ある事柄で大変な苦労をされました。そんな中で「教会に行ってみよう」という思いが湧き、近くの教会に行きました。そしてイエス様を信じ決心されました。Tさんは問題解決を求めて教会に行ったところ、そこには主の深い恵みとお導きがありました。「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたは

することは、すべて時にかなって美しい」
(伝道者3:11)です。

ノルウェーはコロナワクチンの完全接種が進み、ほぼ全ての規制が解除されています。再び声高らかに賛美をもって主を礼拝し、また感謝をお捧げ出来る嬉しさと幸いを実感してます。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くとも悪くともしっかりやりなさい。」
(IIテモテ4:2)(つづく)



集会後の親睦会

聖書の集い・連続メッセージ
「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

その時、
わがたましいは歌う

ミッション・宣教の声
黒田 袞一郎

第1巻～第8巻 刊行

多くの人たちに親しまれている讃美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。

中綴じB6サイズ ￥500(税別)

ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。

海外伝道シリーズ 旧東ヨーロッパの 教会と信者は今

163

東ウクライナ
黒田禎一郎

「飢えた者にあなたのパンを分け与え、家のない貧しい人々を家に入れ、裸の人を見てこれに着せ、あなたの肉親を顧みることではないか。」イザヤ58:7

昨今の世界では、人は心を次第に閉じ神のことばに関心を示さなくなっています。それだけに命の意義について語り伝えることは重要です。多くの地域では、キリストの福音を語る困難と危険度は以前に比べて高まってきた。しかし神にとっては困難も障害もありません。主イエス・キリストの再臨まで、私たちには福音を語り伝える務めが与えられています。まもなく来られる主イエスにお会いする日、恥じることのない聖徒として生き続けたいと願います。次は停戦合意中である東ウクライナのロヴァスクへ、キリストの福音を宣べ伝えるために入った、ロシア人セルゲイ・S伝道師からのレポートです。



感謝集会と福音

私たちの最も大きな願いはキリストの福音を宣べ伝えることです。国境を超えるには家族で移動することが最善ですが、今回は私の次男が病気となり、また長男はロシアから出国できるパスポートを持っていないため、私はやむを得ず家族を家に置いて伝道に行きました。東ウクライナでの限られた滞在は、日曜日の感謝礼拝から始まりました。そして「家族のタベ」、「未亡人となった婦人たちのタベ」、そして「子どもキャンプ」などが開かれました。

私たちの初めの感謝集会では、春に生

活必需品を渡しキリストの福音を伝えた方々を今回の集会に招待したところ、20名以上の参加者がありました。この人々には心の渴きがあり、それを癒すために新鮮な水を一滴でも飲みたいと願っていた人たちでした。感謝集会後、私たちは参加者へ昼食を提供し共に食事をしました。この地域の人々は貧しさから十分な食物がなく、ある方々は何日も食べ物を口にしていませんでした。そこで彼らは靈肉の満たしを得て、大変満足し感謝されました。集会後に、外部からの参加者全員にマルコの福音書とチョコレートを手渡しました。また路傍伝道でも、100人以上にトラクトとスイーツを手渡すことができました。

今春に私たちは3冊の聖書を渡しましたが、その1人であるタチアナ・Sは、前にレポートしたように、ドイツからのサポートによってヤギを飼うことができ感謝されました。隣人愛は確かに実を結び、彼女はその後熱心に教会生活を送り、夫も集会に誘い本当に幸いな日々と送っていました。また聖書を渡した2番目として、ルドミラ・Oがいます。彼女はその後国からの支援を受け取ることができるようになり、また教会にも出られるようになりました。さらにイエスをキリストと信じ救われたと聞きました。3番目に聖書を渡したマークは、今年洗礼を受けることとなりました。このように、春に伝道し聖書を渡しました。



贈呈用食料品を車に積むセルゲイ・S伝道師ボーラー、そしてサラダは皆さんの大好物で、全員が満腹になるまで食べ何ひとつ残りませんでした。最近救われた人々は以前救われ信仰生活を送っている人たちに比べ、貧しい状態に置かれていました。理由は彼らのかつての生活が貧困であったからです。彼らの眼差しはいつも空腹に向いていました。そのため、感謝会でもお替わりを求めた人もいたほどでした。

また、私たちは「未亡人となった婦人たちのタベ」も開きました。コロナ禍が始まる前は彼らの家々を訪問しましたが、今回はできませんでした。そこで、婦人たちに教会に来るようお願いしました。すると何と71人の婦人が参加しました。私たちは茶菓を準備し神のみことばを語りました。そして参加者一人ひとりに「おやつ」をプレゼントしたところ、大変感謝されまた喜ばれました。彼らにとって、交わりはとても価値あるものでした。残念ながら、この集会に参加できなかった婦人たちもいましたが、彼らを訪問することもできませんでした。なぜなら彼らが住む地域では、見知らぬ人の立ち入りは禁止されていたからでした。しかし、幸いにも少し前にイエス・キリストの信仰に導かれたヤコブとオルガ夫妻が集会に参加していましたので、彼らに村の老人、未亡人を訪問し祈り励ましてくれるよう、頼むことができました。私たちの今回の伝道旅行は、戦時下にある東ウクライナで生活に困窮していた人々を訪ね、励ます実りあるものとなりました。今回の伝道旅行に準備した100個のお土産は、すぐになくなりました。それは大きな喜びでもありました。

(つづく)

た人々が、それぞれ神の祝福を受けていたことを聞き、私たちは生ける神を賛美し感謝をお捧げました。

103人が満腹となる

感謝集会には103名の参加者がありました。私たちには200人分の食事を用意しました。マッシュポテトにミート



「未亡人となった婦人たちのタベ」で語るセルゲイ・S伝道師



集会に参加した婦人たち

神の証人となった家族(後編)

軍服の天使たち

クォンヌンの父が大韓民国へ脱北を無事に果たすと、一家は計画通り、次は母と15才の姉、クォンヌンの3人が北朝鮮を離れる時となりました。17才の姉だけが山奥の家に一人残り、最後に旅立つ手筈となりました。厳しい監視体制の中、奇跡をもって神に守られていきましたが、彼らが豆満江を渡る直前、指針係からの連絡が途絶えてしまいました。韓国で妻子を待つ父は、多くの牧師や宣教師たちに助けを求め、その聖徒たちによって祈りの炎が起こされました。秋深まる冷たい豆満江の流れは早く、その様子に3人は狼狽しました。案内係のブローカーが、我が身を挺して先に川に入りました。彼は川から自分の手を伸ばし、その手を1人がしっかりと取って、手をつなぎ合うようにして全員が川に入りました。前もって金を握らせていた、国境警備隊将校たちが背後で周囲を監視しながら、3人が無事に川を渡り切るまで、保護し続けてくれました。軍人たちは賄賂を受け取った見返りとして、黙って道を開けるだけでなく、3人の新たな旅立ちを応援してくれているかのように、脱北をほう助してくれました。彼らの行為は明らかに国家に対する背信行為であり、この様子が誰かに見つかれば、軍人たちの生命も危ぶまれます。危険を顧みず、3人が何とか川を渡り切るまで見届けてくれた彼らは、まるで神から遣わされた天使たちのようでした。

母の強さ

ブローカーと別れ、冷たい川から中国大陸に這い上がって来た3人は、全身ずぶ濡れになり、濡れた衣服は凍りつき体温を奪い、凍えそうでした。川を渡る道中で薄氷に引っ掛けられ、木の小枝が刺さり、体のあちこちに生傷ができました。彼らは道路沿いに立ち、出迎えてくれるはずの車を待ちましたが、どの車も彼らに見向きもしませんでした。連絡は遮断され、頼る者もなく、見知らぬ土地に放り出された3人は途方に暮れました。全身ずぶ濡れで破れた衣服をまとった母子たちを、この国ではひと目で脱北者たちだと悟り、このままでは公安に見つかるのも時間の問題でした。

そうなるとすぐさま強制送還され、そ

れは国境で捕まるよりも厳しい処罰が課せられ、苦痛の中で死んでいくしかありません。それならばいっそ川で溺れるか、ここで凍え死んだ方が良いのではという思いが母によぎりました。けれども、嘆いている時間はありません。せめて子どもたちだけでも守ろうと、母は木陰に子どもたちを隠し、一か八か大胆に道路脇に出て、手を振りました。すると、中国人運転手のタクシーが止まりました。既に乗客が一人乗っていましたが、母は言葉が通じない運転手にありったけの金100元を渡し、3人はタクシーに乗り込みました。

賛美と礼拝の旅路

運転手が先に乗っていた乗客を降ろすと、何処へ向かっているのか、明るい都市部へ車を走らせ、しばらくして一つの建物の前に止りました。寡黙なこの運転手は機転をきかせ、最北端都市である琿春の朝鮮族旅館に車を停車させました。しかし、何も知らない3人は、これは公安の建物かもしれないと恐れ、車から降りることができませんでした。母は父が教えてくれた中国の電話番号を運転手に渡して、電話をしてもらえるように頼みました。その番号は宣教団体の秘密裏の電話番号であり、結局、3人は父やブローカーたちが用意した方法や経路を使うことなく、想像もしなかった方法で、目的地であった宣教師の家に到着することができました。彼らのためにとりなされた多くの祈りによって、この3人に再び奇跡が起きました。神の恵みと宣教師たちが持つ、キリストの愛に心触れられた3人は、滞在中の1ヶ月間にイエス・キリストを主として受け入れ、御言葉を学び、主に賛美と礼拝を捧げる日々を送りました。

安息期間を経て、3人は公安の目を避けながら、広大な中国から脱出することができました。中国出国後は、ラオスからタイに抜ける脱北ルートが一般的だとされていますが、ラオス国境は警備が厳しく、3人はベトナムを経てカンボジアに到着しました。カンボジアに入国すると、難民申請をすることができましたが、大韓民国へ渡るために6ヶ月間、難民収容所で待つしかありませんでした。幸いなことに、彼らが入った収容所はキリスト教会が世話を施設であり、3人はその場所でも聖書を学び、礼拝を捧げることができます。

神の証人、愛の奴隸として

6ヶ月後、ソウルに到着した3人は、北朝鮮で別れた父と1年8ヶ月の時を経て再会することができました。最後まで北に残っていた17才の長女もその後、北朝鮮を脱出し、彼女は中国で公安に捕えられたものの、釈放されるという奇跡を体験しました。5人家族全員が顔と顔を合わせるまで、実に3年の年月が流れました。北朝鮮山奥の貧しい少年だったクォンヌンは、現在26才となり、高麗大学政治外交学科を卒業後、修士課程に進みました。この家族の稀有な人生の記録は、今日多くの人々に力強い励ましを与える、一家は主の栄光を告げ知らせる神の証人となりました。

これまで、多くの脱北者の方々がイエス・キリストと出会い、困難な状況にあっても信仰の勝利者として、彼らの輝くばかりの証を掲載させて頂きました。彼らの最も大きな勝利は、国家から搾取されていたアイデンティティ、つまり彼らが自己を取り戻したことあります。恐怖政治の支配下と洗脳により、彼らは自分自身を抹殺させられ、国家が理想とする国民像を強要され続けました。しかし、神との出会いは、彼らも創造主によって大切に造られ、神の御子が身代わりになって下さるほど尊く、愛されている存在であるという真のアイデンティティを獲得しました。金独裁政権の奴隸として、自己を奪われ続けた存在から、神の愛の奴隸として、喜んで神に自己を捧げる存在へと変わりました。あなたは神の愛の奴隸として選ばれ、他でもないあなたしかできない使命を神は用意しておられます。今日、あなたしか語れない証が誰かの心を揺さぶり、あなたの祈りが、北朝鮮の何処かで誰かが神に出会う、そんな日になるかもしれません。

「あなたはわたしのしもべ。」

わたしはあなたを選んで、捨てなかった。」
(イザヤ41:9) (氏名は全て仮名です)

(つづく)



北朝鮮国家を崇拝する国民

ドイツ

●ケルン市長ヘンリエット・レーカー氏は、イスラム教寺院(モスク)は金曜日礼拝に際し、モスク塔からアラーの神への祈りを呼びかけをする許可を出しました。



ケルンにあるイスラム教中央寺院

これはケルン大聖堂から定時に鐘が鳴ることと、同等と評価されることになります。金曜礼拝のコールは12時から午後3時まで、最大で5分間「祈祷の呼びかけ」ができます。将来的には、ムアッジン(礼拝祈祷を呼びかける人)が行うものとされます。しかし今回はモデルプロジェクトで2年後に、ケルン市と参加モスクがその評価を行い、プロジェクトを継続するかどうかを判断することになります。ケルンには約12万人のイスラム教徒がいます。そして45のモスクがあります。このモデルプロジェクトには賛否両論があり、激しい討論が出ています。ローマ時代からある古都ケルンで、アラーの神への祈祷呼びかけが公に行われることに市民からも反対の声が上がっています。どうぞお祈りください。

●10月6日、国際宣教団体「オープン・ドアーズ」は、テーマ「迫害下にあるキリスト者」と題し宣教大会を開催しました。そしてCDU(キリスト教民主同盟)とCSU(キリスト教社会同盟)の国会議員グループ代表フォルカー・カウダー議員を迎えました。カウダー氏は、カトリック教、プロテstant教を問わず、世界では多数のキリスト者が迫害を受けており、ドイツやヨーロッパのように自由がある国々は例外であると語りました。そしてカウダー氏は、難民の多くが苦難にあっていていることも忘れてはならないと力説しました。しかしそれは直ちに国境の門を解放せという意味ではなく、信仰の自由がなく苦難を受けている人々を覚えるべきであると述べました。「オープン・ドアーズ」ドイツ代表マルコス・ローデ代表は、キリスト者への迫害は年ごとに増加し、現在世界で約3億人のキリスト者が苦難と迫害を受けていると語りました。また会議に参加したドイツ・オンラインアンス同盟ラインハルト・シンク事務総長は、ドイツ国会と国会代表議員が迫害下にある人々へ理解を示し、キリスト教信仰を明確にし迫害下の人々への支援姿勢を崩さないことは尊いことである、と述べました。「オープン・ドアーズ」は11月14日から17日まで、テーマ「全世界へ信仰の自由と成長する教会」と題し、迫害下にある聖徒を覚える宣教大会を開きました。どうぞお祈りください。

●10月初旬、リンダウにおいて「世界平和会議」が開かれ、世界86カ国から11の代表宗教人たちが集まり、約1,700人が参加しました。世界宗教の代表者の中には外交官も含まれ、世界平和会議では、誰もが次のことをしてはならないと宣言されました。それは宗教の名の下に、性的、肉体的、言語的、または武力的な暴力を振るうことです。各宗教代表者は、それぞれの宗教の特色を生かした活動を行うのは良いことです。参加者は平和維持、人権について議論するために集まり、人権と持

続可能な宗教間の対話を促進したいと考えています。この会議は1970年の設立以来、崇高な目標を掲げ「崇高な目標、思想、良心、宗教の自由を守る」ことを目的としています。



「世界平和会議」の参加者たち

●ドイツの68カ所に超教派の「祈りの家」があり、そこにクリスチヤンたちが集まり定時に祈りがささげられています。丁度、10年前にアウグスブルクで始まった「祈りの家」での祈祷時間は10万時間となったのを機に、9月19日、同所長でカトリック神学者でヨハネス・ハルテル師は記念会を開きました。この「祈りの家」はヨーロッパでできた最初の祈りの運動です。当初は100人ほどの参加者でしたが、2020年には1万2千人ほどが参加するようになりました。また昨年4月に開催された祈祷大会では「苦しみの下にある人々への祈り」には、インターネットとTV配信で約50万人のクリスチヤンが参加しました。次の祈祷大会は2013年1月に、アウグスブルクのシュバーベン・メッセ会場が予定されています。



ヨハネス・ハルテル師

パキスタン

国際人権団体ADFインターナショナルは定例記者会見で、パキスタン政府はキリスト教徒の少女たちの強制結婚に対し行動を起こすべきであると発表しました。ADFの発表では、パキスタンにおいては年間約1千人の少女が強制的に結婚が強いられ、人権は無視されていると訴えています。また児童誘拐事件も頻繁に発生し、ほとんどの子どもは親元へ戻ることがないと言われます。そして世界のクリスチヤンは、イムラン・カーン首相宛てに抗議文を出すようアピールしています。どうぞお祈りください。

サウジアラビア

「インパクト-se」と日刊紙エルサレム・ポストは、世界中の子どもたちが勉強する学校教科書内容を調査していますが、このほどサウジアラビアの学校教科書に寛容さが少し見られると公表しました。これまでユダヤ人、キリスト教徒、不信者には悪魔扱いされていましたが、変化が見えてきました。新調査によれば、ジハード(聖戦)による統一は削除されたことが判明しました。またムスリムがユダヤ人、キリスト教徒と友好関係を持つことへの禁止事項も削除されました。以前は、ユダヤ人とキリスト教徒は不信者、神の敵という表現でした。また予言者モハメドの名による暴力と殺人の項目も外されました。しかしイスラム教の布教は推進すべきとし、他のイスラム教国に配慮を見せていました。「インパクト-se」の代表者マルコス・シェフ氏は、77ページにわたる調査書のはじめに、サウジの学校教科書には明らかに改革が見られると述べています。彼らは、宗教政策の証人としてサウジの平和的寛容さを示すことを、子どもたちに学校教科書を通して教えようとしている、と述べています。様々な文化や世界史観に肯定的表現も見られます。しかし多神教徒とシオニストは拒否しています。人口約3千470万人、国民の91%がムスリムです。サウジのため、お祈り願います。

ミャンマー

人口約5千700万人のこの国で、2月1日に軍事クーデターが勃発し今に至っています。国軍と一般市民の衝突では、死傷者人数は増加するばかりで、国連はじめ先進国からの仲裁と救済の手は届いていません。長引く国内紛争でインフラは混乱し、経済、教育は低迷して後退しています。その上コロナ禍で国民は苦汁を経験しています。このような情勢下で、教会では聖日礼拝や他の集会を開くことが困難な状態にあります。そこで大きな教会では毎日拡声器を通して、みことばを宣べ伝えています。約200の教会の信者たちは9月を「靈的活生月」とし、定時に同時祈祷を行いました。そして困難の中に置かれても信仰が強められるよう祈りました。出口が見えない状態で国民は苦難を強いられています。ぜひお祈りをお願いします。



国軍の軍事クーデターに抗議するデモ隊

ブルンディー

世界で5大最貧国の一つと言われるブルンディーは、アフリカに位置しています。約1千200万人がスイスの土地の約三分の一に集中し、生活しています。そこでまず、生きるために必須である食物が不足しています。多数の人々が狭い畠地の農耕で作物入手しようと務めていますが、困難を極めているのが現状です。次に医学的ケアが不足していることです。特に約4万人のピグミー族と他の民族では、大きな問題となっています。彼らの貧困は非常に大きなもので、加えて民族間差別が今日も現存しています。貧しさからくる失望感とアルコール依存は、大きくなっています。そこで当然のことながら弱者である子どもたちは、多くの犠牲を強いられています。彼らの多くはまだキリストの福音を聞いていません。国民の約90%はキリスト教徒で、その約3分の1がプロテスタンです。教会堂は町や村のあちらこちらに見られ、欧米の国々からはいくものキリスト教宣教団体が入り、支援プロジェクトを行っています。教会には何百人の子どもたちが助けを求めて来ていますが、中には食物を飲み込む力さえない子どもいます。現地で働くある宣教師は「イエス様が子



空腹をかかえる
ブルンディーの子どもたち

どもたちの目を通して、私たちをご覧になっている。」と語っています。クリスチヤンの働き人と多くの支援が、ここでも求められています。どうぞ、この国のためにお祈り願います。



ピグミー族の人々

ナイジェリア

カドナ州において9月、ウイニング・オール福音教会のシラス・アリ牧師は手に「ナタ」をもった不審者に襲われ殺害されました。ナシール・エリ・リファイ・カドナ州知事はこの事件に深い追悼の意を表しましたが、クリスチヤン殺害事件は一向に後を絶ちません。インターネット情報配信の「クリスチヤン・ポスト」によれば、同州において過去200日間で3千362人のクリスチヤンが殺害されました。犯人はほとんどの場合、フラニ羊飼いとイスラム教過激派組織であると思われています。ナイジェリア人権委員会「インター・ソサイアティー」によれば、クリスチヤンが助けを求めてはいますがナイジェリア治安機関はほとんど把握していません。国際宣教団体「オープン・ドアーズ」の世界迫害度ランキングによれば、ナイジェリアは第9位です。人口2億人以上の国民の約48%はキリスト教徒、51%がイスラム教徒です。どうぞ、お祈りください。

アフガニスタン

著書「世界史のイエス」で知られるドイツ人クリスチヤン・TVジャーナリスト、マルコス・シュピーケル氏（元ARD南アジア特派員）は、カブールの状況を次のように語っています。前政権崩壊後、イスラム教過激派組織タリバン支配下に置かれた国民は、苦悩と不安の中に置かれています。農作物が不作の中で、コロナ禍となり、インフレ、失業が蔓延しています、国民の半数は貧困ライン以下にあります。今冬、数百万人のアフガニスタン人は飢餓の冬を迎えようとしています。中でもクリスチヤンたちが置かれた状況は、二重の厳しさを抱え深刻です。それは彼らの大多数は置き去りにされた元西側政府機関関係者であることと、回心したクリスチヤンであることです。彼らは殺害される不安をかかえ生活しています。タリバンが遵守する「イスラム法規」では、回心者は死刑です。どうぞ、お祈りください。



マルコス・シュピーケル氏

ミッション・宣教の声 The Voice of Mission

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター5F

TEL 06-6226-1334 FAX 06-6226-1336

E-mail senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/

発行人 黒田禎一郎

年間購読料 ¥2,500(送料込)

郵便振替口座 00940-3-301623

銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)

普通口座 3623132「ミッション・宣教の声」

The Voice of Mission
MUFG Bank,Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 Mikunigaoka-Miyukidoori,Sakai-ku,
Sakai-shi,Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041

編集後記

編集後記

■今年も全世界でクリスマスが記念され、神に栄光がありますように。キリストの平和が世界を支配しますように。

■「宣教の声」は今年も毎月世界各地からのニュース、海外邦人宣教、旧東ヨーロッパ宣教、そして北朝鮮からの叫び等をお届けしました。皆様のお祈りに心から感謝します。

■「ミッション・宣教の声」は読者の愛の自由献金によって支えられてきました。献金手段簡易化のため「オンライン献金」が始まりました。これは国内外と問わず大変便利ですので、導かれた方はご利用ください。詳しくはホームページをご覧ください。1年間の皆様のご支援にお礼を申し上げます。では幸いな新年を迎えてください。